

第70回関西平和美術展 平和の壁を守る決意にあふれ

第70回関西平和美術展7月27日～31日
(堺市立文化館ギャラリー)



連日の猛暑と新型コロナウイルス「第7波」の緊張の中、3年ぶりに第70回関西平和美術展は、新会場の堺市立文化館ギャラリーにて、7月27日(水)から31日(日)迄開催しました。平和の思いを多様な作品と共に、例年に近い出品者、出品がありました。非核を願う「特別展示」や「企画展」を取り組み、1,000人余の観覧者の多くと共に、平和の大切さ、心を寄せる美術展となりました。



2022年10月

第39号

関西美術家平和会議

広報部発行

■事務局/〒530-0054

大阪市北区南森町2-2・14

TEL 080-8516-7205

第70回関西平和美術展を終えて

実行委員長

坪井 功次

3年ぶりの平美展は、大阪市立美術館の改修工事により、堺市立文化館ギャラリーの全室を申し込み、美術館並の壁面を確保しました。初めての会場での出品呼びかけ、搬入出、展示、2回の休会による予算等々、不安材料満載でしたが、ロシアのウクライナ侵攻、憲法改悪など、危機的な状況に休止は考えられず、誰もが平和の壁を守る決意にあ



コスモス 吉田朋子

ふれ、積極的な新メンバーの参加で活気のある実行委員会でした。

特別展示「原爆の絵」展、企画展「ウクライナに平和を！」は核の脅威が高まるなかで、状況に呼応した取り組みでした。特別展の被爆の惨状を高校生が聞き取り描き、次世代に伝える事の素晴らしさ。出品者以外にも呼びかけた企画展は、平美展を知ってもらった広がりになりました。

アンケートでも多くの賛同と共感の声が寄せられ、例年規模の作品数は、廊下まで使用した展示で狭く感じましたが、平和への溢れる思いを伝える熱気になりました。慣れない会場での戸惑いや、反省もありましたが、益々、混迷を深める社会に輝く次回平美展に向けての糧としましょ。

平和への想い 響き合って

平美展アンケートより (☆初めての方)

◇すごく興味深い作品ばかりでした。天王寺美術館より今回訪れた美術館の方が照明と天井の高さも作品たちを引き立てて良いなと思いました。(10歳代・女) ◇原爆の日、終戦記念日が近いことに加えて、今年はウクライナ侵攻もあったので、「平和」というテーマに一層重みを感じました。また高校生達が被爆者や体験者の話を聞いて制作し続けている「原爆の絵」も、これほど多くの数が制作されている事を知り驚きました。(30歳代・男) ☆圧倒されました！作者の思い、特に平和の思いが込められた作品が揃った。(60歳代・女) ◇皆さんの強い願いが響いてきました。会場が少し狭いと思いますが、狭いことで作品の持つ力が響き合っている。(70歳代・女)

新会場での

関西平和美術展

事務局 山田 泰子

初めての会場で遠いから出品しにくいと言われる中で準備で、出品者はいつもの半分くらいだと思っていた。初出品者25人あり、最終的に従来に近い176人になりました。「広島の高校生が描いた原爆の絵」の特別展示と

準備を始めた頃は新型「□」も落ち着いていないのに間近になって第7波となり見に来てくださった方はいつもより少なく、1,000人超ほどでした。皆さんのご協力で大きな不備もなく無事終えることができました。ありがとうございました。

第70回関西平和美術展

堺市立文化館ギャラリー

7月27日から31日まで開催された平美術展の新会場は、2階3階の二室と各廊下側にも展示。2階会場入り口受付でコロナ感染予防対策



2階会場入り口のみに設けた平美術展受付

から入場者の体温測定と各自で連絡先記入を済まし、目録名簿を手渡されて、各会場を自由に鑑賞へ。2階



非核署名や募金、会場アンケートの記入等の平和コーナーでのひととき。

の展示は油彩・アクリル・水彩・パステル・デッサン等絵画関連・立体・遺作と特別展示『高校生が描いた「原爆の絵」展』。3階の展示は油彩・日本画・水墨画・絵手紙・きり絵・はり絵・ちぎり絵・版画・デザイン・漫画・写真・書・彫刻・立体・工芸・その他等と企画展「ウクライナに平和を！」。作品鑑賞後は、会場アンケートの記入、非核署名、原水爆禁止世界大会代表派遣募金等へ協力と依頼の平和コーナーが3階廊下側に設置されています。(3面に関連写真を紹介)

悲惨な現場に直面したかのような

特別展示

広島の高校生が描いた
「原爆の絵」展



廊下側に展示の「原爆の絵」を一枚一枚鑑賞する人達

広島平和資料館の企画で、広島市立基町高校の「創造表現コース」の生徒に被爆体験を話していただく方を募り、共同で絵に実現していく試みが、2007年から続けられて来ました。数年前NHKテレビなどで取り組みが紹介され、関西美術家平和会議の総会行事で紹介しました。実行委員会として今回、資料館からCDを貸してもらい、プリントして特別展示しました。

悲惨な現場に直面したかのような「原爆の絵」を、若い方から年配の方まで熱心に鑑賞される姿を見受けました。

(目黒郁朗)

新会場から



平和の壁に花一輪を



企画展「ウクライナに平和を！」

79人の出展者は7歳から96歳迄。遠くは北海道の礼文島から。

企画展

ウクライナに
平和を！

(4面に関連紹介)



お年玉

絵画 山本 君江

ウクライナの戦争状態の中、今の日本の私が平和をどのように考えるのか、色々な人と話し、考え悩みました。戦後まもなく生まれた私にとっての平和とは、やはり当たり前の生活、お正

わくわくドキドキ 初めて出品！

出品作品は関西平和美術展の
ホームページで紹介を予定しています。

月に孫達にお年玉をあげて喜ぶ姿。平和について考える機会を与えてくださった美術展に感謝いたします。

野良の竿じまい

絵画 田中彰治郎



今年、初めての関西平和美術展への出品でした。しかし、出品少し前に体調を崩し作品の搬入さえも他人にお願いする始末。観にも行けなかったのはとても残念なことでした。

この展覧会には過去に何度か観にきていましたが、当時は創作を中断中の時期でしたので出品にはおぼつかないことでした。しかし今回、縁があつての事

でしたが、ウクライナへの侵攻や、日本の動きが戦争へと・・・。そんな危機感が私の心理に影響、出品に導かれたのかも知れません。これからは出品続けます。

芙蓉

絵画 松本 享子

「平和を守りたい」という平美展の意義に賛同し、出品されている方々の作品に込めた気持ちを感じています。

友人から「出品したら」と声をかけられた時、自分の作品の至らなさに、「こんなでもいいの?」という申し訳ない気持ちがあり、迷いましたが、平和を守りたい気持ちを大事に



しようとしました。忙しくてなかなか作品が出来ず、出品できないかもしれませんが、応援していきたいと思っています。

OSAKA

絵画 遠藤 大介

皆様のご支援の元、出品できたこと、大変感謝しております。全体主義の如く悪政を行う大阪の政党のあ



る場所において、ゲルニカを飾ることは夢でした。

さて、ところでウクライナに露が派兵したのは、ウ軍が進露派国民を弾圧していたのを自衛するためという側面もあります。ウだけを見るのではなく、美術によつて開かれた目で、西国の平和を求める団体であつてほしい、そう願つばかりであります。

描くものと観るものの 距離が近づいた...

企画展

企画作品は、79人の出展で開催日に完成しました。

出展者は7歳から96歳まで、遠くは北海道の礼文島から。7歳の出品者は、かわいがつていた猫が死んだことがモチーフとなつています。テレビから伝わるウクライナの現実が重なり、一



女は、侵略が伝えられてまもなく、描いたものです。「ウクライナに平和を」という企画展のテーマはそれなりに難しさがありません。馴染みのない「ウクライナ」という言葉に何を描こうと頭を悩ませたのは私だけではないはずです。まさにそのプロセッサが肝でした。

枚の絵になりました。絵にすることで戦争を知ることになったとは、おぼやちやんの話。

「越境して、喜ばれるのは竹の子だけ」の川柳に添えられたタケノコの絵は最高齢の方の絵手紙です。彼

企画展は描くものと観るものの距離が近づいたように感じます。今回はウクライナをテーマにしましたが、こうした企画展を行うのも今後の方法かと考えています。

(星野 智)

今年も出品しました

平和大好き

明日へ繋ぐ力蓄えて

大工 3

彫刻 柏米どり



高の芸術だと働きながら必死制作60年

「日暮れて道遠」

彫刻は地味な仕事。きつい、汚い、危険の3K。毎年等身大以上の人体を制作。女性彫刻家として、道を切り開いていきたい。現代アートはやりたいが、人間を対象とした具象彫刻こそ決意新たに制作中。

具象彫刻ーヒューマニズムの芸術であり、フォルムの追求によって作品となる。学生時代、彫刻こそ最

平和の思いを抱きしめて

書 長 祥嶺

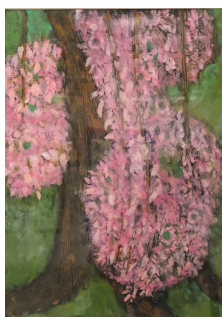
平美展に出品を始めて約

25年、以前は仲間を募ってグループで出してきましたが、今は搬入の手数を省き、単独で出品しています。

しだれ桜の夢

版画 高田眞佐子

過日、「近くの公園のしだれ桜が満開だから、見に来ない？」と誘われて、出かけた。春の穏やかな陽を受けて、それは、華やかに、静かに、風にそよいでいた。華やかな静けさ、平和ってこいつってなんだと思っ



託して作品にした。「しだれ桜の夢」などという題名にしてしまったが、夢であってはならないと思っている。

ロシアのウクライナ

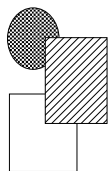
侵略戦争やめよ

絵手紙 板尾 紀子

ロシアの侵略戦争の映像に、こんな事があっていいの、と怒りはつきます。

平美展の作品づくりは戦争問題をおいて他にない計画を立てました。

しかし、作品づくりになかなかいい案が浮かんできません。そこからいざとなと自身に鞭を打ちなんとか作りました。



高校生の「原爆の絵」をみて

広島の高校生の作品群には、強く胸を打たれました。聞くだけでなくそれを絵で表し、どんな気持ちで話を聞き描いたのだらうと思うと、そこに希望へ続く道を感ずります。広島の高校生の方々に感謝！そして指導なさった先生方、お話をくださった方々に感謝と感動です。これをもっともって広めて政治家に見てほしい。



宮脇 達

(会場アンケートより)

70歳代・女

※編集後記

今年の平美展、みごとに「平和の壁」に大きな花が咲きました。高校生をはじめ若者の作品参加が嬉しい。体調不良や諸事情で出品を断念された方も来年は是非出品致しませう。(吉)

会場アンケートで「周りの人が来て迷惑を受けた」と複数人あり、今度の会場は天井が低く、声が反響したのではないかと私達もそ

戦争に思う

『満州国』から引き 揚げて

米澤 俊(83歳)

私が小学一年生の時、敗戦となった。『満州国』の日本人学校に通っていた。ソ連との国境の近くで暮らしていた。当時、収容所に日本人は入れられて、ソ連兵の警護の下にあった。日本に向かう船は、葫芦岛(ころとく)にあつて、国境の街から屋根の無い貨物列車で運ばれて、時折、教会に泊められたりしながら、一年程かかって到着した。四千人程の日本人はこの港に着いた時、半分になつていただと聞いている。父は軍人であつたので、シベリア抑留となり、帰国は私達より二、四年後になつた。

葫芦岛を出た船は博多港に着き、DDT粉末を頭からかけられて、日本の土を踏んだ。引き揚げの途中の収容所で、長女と末子が死んだ。私は肋膜炎を患つても帰国後に治つて、今に至っている。母は「持ち帰ったのは、長女と末子の髪と爪と二つまみの墓土だけだ」と日記にしている。仏壇に今も置かれている。日本に帰国してからも、まだ大変でした。父は、シベリア抑留で、帰国していないため、母親の手一つで子どもたちを育てなくてはなりません。

【次号に続く】

今こそ 核兵器禁止 条約の 批准を

今年の原水爆禁止世界大会・広島集会に関西平和美術展から山岸稔さんを代表として送りました。

大会ではウクライナ、ロシア双方の平和運動の代表がロシアの暴挙を許さない国際世論を広げる必要性を訴えました。今大会は核禁条約第一回締約国会議が画期的成功を収めた後のNP T再検討会議に向けた被爆地からの強いメッセージにもなりました。

岸田政権は核禁条約に背を向けています。世界の平和を求める動きを加速するため、今こそ政府に批准を強く求めていきましょつ。

関西平和美術展での署名数173筆(以前の数含め407筆)

(山中成子)

本松進一さんを偲んで

川口 政己



ひとときわ人目を引く美しい細密風景画。毎年の平美展会場にあるはずの絵が無いことが、これほど寂しいとは思ってもみませんでした。

私が本松さんと知り合ったきっかけは、2005年に同じ会社の先輩であり共通の知り合いである平川常己さんを通じて紹介していただいたのが始まりです。

平川さんは平美の写真シャネルの常連でもありました。「会社のOBで凄いい絵を描くプロの画家さんがいる」と聞いて私はフクフクしたものです。そして本松さんの個展で初めてお会いして楽しく会話をしたのが昨日のことのようです。

「大きいサイズの絵を描くと上達しますよ」と本松さんに勧められ2007年に描いた「南沢峠(F30号)」の絵を持って自宅を訪問し、アドバイスをいただきました。そして翌2008年、その絵を平美展に初出品しました。その時、お褒

めの言葉をいただき嬉しかったのが忘れられません。

所謂、絵の師弟関係では

ありませんが本松さんは心の師でした。大病をされてからも過酷なリハビリを乗り切つて見事な復活をされました。絵を描くことへの情熱は並々ならぬものがあり見習うところも大きかつたものです。平美展会場でもいつも「二二」お話ししてくださった本松さんの柔和なお顔が今も忘れられません。

本松さん、17年もの長きにわたり懇意にいただいていた「二二」にありがとうございました。今は天国の風景を、その素晴らしい腕前をもって描きとめられていることでしょう。

安らかに眠ってください。

平美ホームページ 担当者 日誌 ②②

ホームページへのアクセス数は1万件を超えて、3年ぶりの関西平和美術展を紹介しています。大阪市立

美術館と違った展示や鑑賞風景「廊下に展示された高校生の描いた原爆の絵」、「ソファでくつろぐ鑑賞者」などアップしています。平美展出品者の個展やグループ展なども掲載して、

鑑賞者の交流の場となるよう日々の更新に努めます。「お問い合わせ」からの感想やご意見お待ちしています。

(篠瀬和行)

